

1月報(2026年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

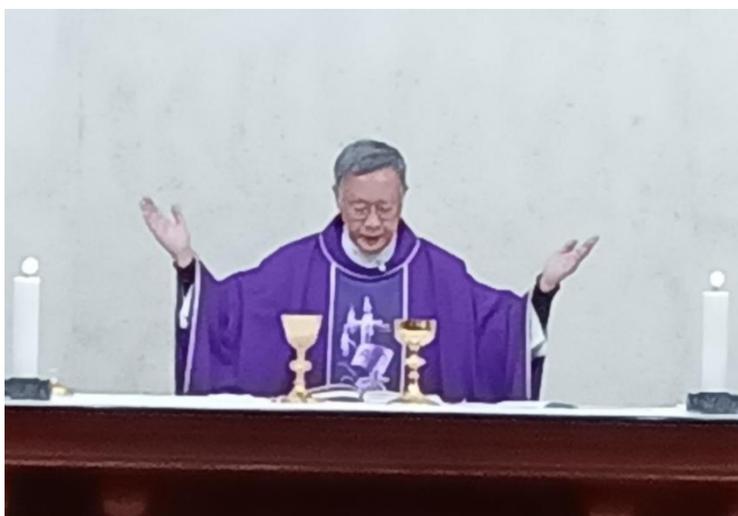
〒720-0808 福山市昭和町7-26
☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615
e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

【待降節黙想会】

2025年12月7日9時ミサで待降節黙想会が行われました。

講師は住田省悟神父様で『神の国を生きる』についての講話と赦しの秘跡をしてくださいました。

講話のはじめに神父様がウィリアム・ホルマン・ハントの「戸を叩くイエス」という絵を見せてくださいました。



そして叩こうとしてイエス様の前の戸には取っ手がありません。戸は内側からしか開きません。この絵からのメッセージはそれぞれ見る者の感じ方によって違うかもしれません。

ただ、はっきりしたことは、いつもたえずイエス様がそばで戸を叩いておられるということです。短い講話でしたがとても心深く染み入る絵の話でした。



【クリスマス会レポート】

宮田 和俊

2025年12月14日晴天の中、カトリック福山教会国際クリスマスパーティーが開催されました。今回はカトリック倉敷教会のバート神父様にお越しいただき国際クリスマスパーティーという名のもと、信者のみなさんと国籍関係なく、キリストの御降誕を祝う会を盛大に行う事ができました。

まず、食べ物については、前日からの下ごしらえに始まり当日調理された料理に加え、各国のみなさんが持ち寄った多種多様な料理が食べきれないほど並び、パーティと呼ぶに相応しいものになりました。

今回は、イエスキリスト御降誕物語の聖劇をフィリピン聖歌隊のみなさんに演じていただきました。この劇の準備には、約2か月前から始まり、俳優のみなさんには仕事のかたわら限られた時間で演技の稽古をし、衣装、音楽、台詞の準備など、みんなの力を合わせて製作しました。その結果、大変感動的な作品となりました。



聖書クイズについては、イエスキリストの降誕にちなんだエピソードや、聖母マリアについて、洗礼者ヨハネについてなどの基本的なクイズが出され、わかりやすく楽しく勉強出来ました。（聖劇をよく見ていれば答えが分かる問題もありました。）

フィリピンダンスですが、いつもおなじみのフィリピンママ達の演舞でクリスマスの曲に合わせて、みなさんサンタクロースのコスチュームでダンスを披露していただきました。とても練習しているようで、洗練されたダンスを見ることが出来てとても良かったです。

ゲームについては、子供向けゲームと大人ゲームに分けられており、まず子供向けは、イスとりゲーム、Bring me(持ってきてゲーム)など、毎度おなじみゲームでしたが、子供達もとても熱中しており楽しんでいました。

大人向けゲームは、これもさすが国際、見たことないようなゲーム、手を使わないでパンツ履くゲーム、家族でおんぶゲーム、ペーパーダンスなど、誰が見てもルール明解、楽しくなるようなゲームでした。

それから、突然のサンタクロース登場と謎のダンス、そんな謎サンタに子供達みんなはプレゼントを手渡されて大喜びでした。

最後に、今回は国際クリスマスパーティと言う事で、司会進行を英語・日本の両方で進行でした。最初はどうなるのだろうと心配していました。我々スタッフも不慣れな事もあり、不備、不具合がある中、皆さんの協力を頂きなんとか完了することが出来ました。感謝致します。本当にありがとうございました。



【京都の街で会う人々】

佐藤 紀子

その昔です。母と旅行に出かけた先が京都でした。当時の私には、大人の街とか近寄り難い印象をもった華やかなイメージの都市でした。お正月が近く、食べ物のことが真っ先に浮かびます。今日はおもちが並んでたとか、くわいの食べ方だとか、きりのない事ばかりです。京の町で佇んでいた母と私は、寒い季節だったか屋台のみたらし団子を頬張って2人でご満悦そのおいしさたるや、知らないくせして流石に京都だ！と言って賞味しました。



食する事と生活することは、実に密接だと最近とみに感じます。

時代劇に登場する陰の名脇役と言ってもいい、美しく配置された日本独自の漆の御膳は池波正太郎さんの並外れた研究と勉強の日々の結果で生まれ、今に至るまで、その世界で知らぬ人がいない程ちみつに場面に華を添えます。昔の文化に忠実に間違えがあってはならないと強い信念と覚悟を感じる職人魂のある、それは多才な魅力を放つ方です。一筋に目覚ますものは1月や2月では生まれれないのだなと技術のなんたるかを考えさせられます。今行けばあの頃の様な心持で京都を見る筈もなく、団子の屋台もないであろう、只、今、傍にあるのは小さな小箱です。裏通りで購入した、朱色の赤のような不思議な入れ物は、丁度御重のようになっていて、お店でそれに出会った私は、その当時、宝物にしようと言ったのを覚えています。人は変わる。今では思い出が詰まっても思春期だった頃のような物を見つめる目にはなれない。京都を思う時なつかしい思い出と子供時分の夢のつづきと人間の儚さとどこか情緒のある通りのふんいきを思い出し今頃もう一度行ってみたいなと感じます。思い出の中に生きるのはある意味悲しいことです。クリスマスの後には復活が待っています。残された弟子たちをもう一度ふるいたたせる大切な季節です。立ち止まるな、私はここにいる。歩いて行きなさい。そういう人間への強いメッセージとイエスの思い出の託された大切な時を、私の確かに生きた時代を重ねて、そして京都の街を深く愛している些末(さまつ)でも一人の人間として今日もどこかで出会う人々、物事に期待をしています。一つの出来事に起因をして折り重なり今という時を皆が紡いでいます。

お正月はもうすぐ、宝物の小さな箱は時として私を励まし、宝石よりも美しくその存在を救っています。人は時として何かにすがりたくなります。できうれば心の目をしっかりと開き前を向いて行きたいですね。会う人々に感謝をするように笑顔を決やさないで歩きたいですね。

人に笑顔を施し、それを和顔施と言うんだそうです。たくさんものを要求しがちな私たちですが、無償で生きることを考え、清らかなお正月にしたい除夜の鐘、年越しそば、ゆく年、くる年、出会う人々、今年もどうぞ宜しくお願い致します。

【ブラザー阿部のみ言葉のおすそわけ】使徒パウロのガラテヤ教会への手紙 6 章

『皆さん、この私には 私たちの主イエス・キリストの十字架のほかに、誇るものが決してあってはなりません。』

今日は、福音書にも心に残る言葉が沢山あったのですが、パウロのこの言葉に心惹かれました。

私たちにとって、「主イエスの十字架を誇る」こと。何と素晴らしい恵みでしょうか。十字架は、苦しみのしるしです。誰でも十字架を、背負うのは苦しいのです。イエスでさえ、ゲッセマニの園で、「父よ、出来ることなら、この杯を、私から取り除いてください」と叫びます。

パウロは、この十字架を私たちの「誇り」とするのです。イエスの十字架の苦しみ、そして死者のうちから復活することによる私たちの救いによって、この十字架が、私たちにとって永遠の幸福に繋がるものとなるのです。

私たちにとって十字架が、この世の苦しみに終わるならば、私たちはとても耐えることは出来ないでしょう。キリストは、十字架の苦しみを通して永遠の命という素晴らしい恵みに変えてくださったのです。

自分の十字架を喜んで背負える方は、ほとんどおられないでしょう。しかし、その苦しみが永遠の命に繋がる道であり、イエスの苦しみを、少しでも分かち合う恵みを頂くこと、そして、その十字架の苦しみが、自分の回りで苦しんでいる人々の、重荷を担うことになるならば、その苦しみが小さな喜びと恵みに変わることになること。それを信じて、一歩ずつ歩みたいですね。



【南相馬便り 83 2025 年 12 月】 援助マリア修道会 南相馬修道院 北村令子

福島民報で 2025 年 6 月 22 日から連日、原発再稼働についての報道がありました。

新潟県の柏崎刈羽原発の再稼働をめぐって、原子力委員会の審査に合格した刈羽原発の 6 号機





を地元住民の了承さえ得られれば再稼働することが決定されました。地元住民は、能登の地震のような大きな地盤のずれなどによって避難が困難な状況が想定されるとして、東電が提示している避難の実効性に懸念ありと再稼働に難色を示しているようです。また専門家も、原発事故は起こりうるとして警告しています。国と東電は再稼働に前のめりになっ

ているとも報道されています。原発一基を再稼働させることによって、約一千億円の収支改善が見込めるために、再稼働を経営再建の柱に据えているのです。しかしひとたび事故が起これば、この経営再建の見込みも水の泡となります。それだけでなく、どれほど多くの命を危険にさらすことになるかを考えると、簡単には賛成と言いかねるのです。新潟県は 2025. 11. 21 に再稼働に GO サインを出しました。

「のど元過ぎれば熱さを忘れる」との慣用句はもう死語なのでしょうか？

15 年経って津波の被災地は、一応の復興を見たとして、カリタスのベースも閉鎖したところもあります。津波の被災地は県や市町村の努力で復興出来た地域も多いと思いますが、原発事故の被災地は簡単ではありません。まだまだ帰宅困難地域もあり、インフラの整備が不十分で帰還しようにも生活ができない現実があります。また安全宣言がされても、放射能の見えない脅威は、簡単に人の心に安心をもたらしはくれません。特に若い世代、子育て世代にはまだまだ警戒心が強く残っています。

原発被災地の復興は 100 年単位の時間がかかることを覚悟しなければならないと思います。再稼働や新規の設置をもくろんでいる政府の政策には、大きな疑問符をつけたいと思います。



わたしの召命物語

福山暁の星学院の事務局で 29 年間、その前の教員としての働きを合わせるとなんと 46 年間暁の星にお世話になったこととなります。高校時代の 3 年間で合計すると、私は半世紀を暁の星で過ごしたこととなります。如何に言っても居座りすぎです。

これからまだまだ暁の星が続いていくためには、後継者が必要です。私も 76 歳になっていましたので、これ以上、労害を振りまくことは、暁の星のために決してプラスではないと思っていたところ、神様は事務局長を引き受けてくださる方を送ってくださいました。

修道会の長上から「今後の使途職に希望がありますか？」と、初めて私の希望を聞いてくださいました。私は迷わず、「もし可能なら、原発事故の被災地フクシマに送っていただければ。」と答えました。そして、長年希望し続けた望みが実現したのです。あの原発から吹き上がったキノコ雲から、広島、長崎のキノコ雲が私の中で一つになって、あのキノコ雲の下で苦しみ不安と戦っておられる人々と一緒に生きることを望ませたのです。4, 5歳の頃一緒に住んだ記憶のあるあのおばさんとおじさんの顔が思い出されました。鏡に反射した閃光で両眼の視力を失ったおじさんとその介助に苦勞しておられるおばさんのご苦勞を思い出して、福島でも同じでないにしても、大変な心勞を抱えて生きておられる人々のことが思いやられました。

焦土と化した広島は70年草木が生えないと言われていたにもかかわらず、真っ赤なカンナの花が咲いたり、雑草はすぐ芽を出したそうです。

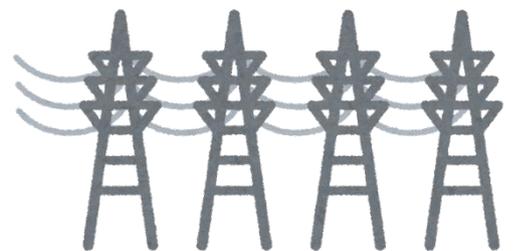
私は毎月11日の月命日に、津波と原発の被災で居住不可となった村上地区を通って、村上霊園のお墓参り行きます。お墓参りしたくてもできない方の思いを心に抱いて。夏にはその道路わきに真っ赤なカンナが咲いているので、いやでも広島の前爆を思い出させられます。

フクシマは、山林は除染されていないので、地域によっては、今も自然の山菜は収穫も出荷もできません。山菜の豊かな地域にもかかわらず、また山菜を採って生計を立てておられた農家さんが多いこの地域に。なんと皮肉なことでしょう！！

ちょっと脱線しました。私はこうして2018年3月に福島県南相馬市小高区に開設された援助マリア修道会の南相馬修道院に、2019年4月に派遣されることになりました。

以前にも書いたと思いますが、この修道院は地元の方の、「一緒に住んで、一緒に生きてほしい。明かりをつけてほしい」との要望に、私たちの小さな力でも応えることができると、「共に生きる」ことを目的に創立されました。私も高齢の身で大きなことはできないので、喜んで地域の中で生きることを望んでここに参りました。

ここに来て、一番のショックは、自分が何も知らなかったということです。あれほど行きたいと望んで、福島のニュースは聞き逃さないように、見逃さないように努めていたと思っていたのに、ここに来て国道沿いに並んで見える赤い鉄塔は東京電力の送電線で、福島で発電して福島人は1アンペアも使うことなく首都圏に送られるということを聞いて、知らなかった！！考えてみれば東京電力なんだから、東京に送られるのは当然なのですが、そこまで頭は回っていなかった。そしてここに来てくださる方が現地案内を終えて、異口同音に言われることがこのことで、みんな私とそう変わらない程度の知識なんだと。変に納得。



【帰天のお知らせ】

マリア 高橋 純子 様 (79 歳)

シンフォリオ 大塚 清 様 (63 歳)

謹んでお知らせします。どうぞ心を合わせてお祈りください。

【1月・2月の行事予定】

1月		2月	
元日	神の母聖マリア 成人のお祝い	2(月)	主の奉献
4(日)	主の公現 成人のお祝い	7(土)	聖園幼稚園生活発表展
11(日)	主の洗礼	14(土)	福山市内巡礼
18(日)	キリスト教一致祈祷集会(25日迄)	15(日)	ミカエルフェスタ
	サントニーニョ	18(水)	灰の水曜日
	聖トマス小崎巡礼(三原)	23(月)	宣教ひろば
25(日)	世界こども助け合いの日(献金)		

【編集後記】

クリスマスミサの説教で『……私たちはいつも幼子イエス様の飼い葉おけのそばにいる…』と話されたことが心に残っています。私の好きな詩に「あしあと」というものがあります。これも神父様が話された“飼い葉おけのそば”と同じ意味だと思われます。いつも私は神様への信頼がたりないと自覚しています。困った時の神頼みでもいいから“イエス様お任せします”という全き信頼を持ちたいといつも思います、が。(T. N)

